

専門学科を有する市立高校のあり方（有識者会議の報告書）について

1 有識者会議について

専門学科を有する市立高校（福岡女子高校、博多工業高校）のあり方を検討するにあたり、社会経済の変化や生徒及び産業界のニーズに迅速かつ的確に対応するため、令和5年8月に外部委員にて構成する有識者会議を設置し、会議を開催した。

令和6年2月1日に、検討結果について報告書の提出を受けたため、概要について報告するもの。

参考：有識者会議 開催経緯

第1回会議	令和5年 8月 24日	高校を取り巻く環境の変化、市立高校の現状等
第2回会議	10月 16日	生徒のニーズ、福岡女子高校、博多工業高校の課題等
第3回会議	10月 30日	福岡女子高校の今後のあり方
第4回会議	11月 6日	博多工業高校の今後のあり方
第5回会議	令和6年 1月 17日	報告書（案）について

2 報告書の概要

(1) 福岡女子高校

① 現状等

- ・ジェンダー平等の社会変化に対応し、性差による入学制限の可否の検討が必要。
- ・定員割れが発生。教育内容が中学生や社会のニーズに合わなくなりつつある。
- ・各学科の学びが必ずしも、その後の進路に結びついていない。生徒の大半が進学しており、進学のための学力が備わる学びの提供が必要。

志願倍率	服飾 デザイン	食物 調理	保育 福祉	生活 情報	国際 教養	普通	平均 倍率	卒業後の進路	
								進学	就職
平成24年度	1.50	1.48	1.45	1.58	1.40	1.25	1.39	227	38
平成29年度	1.10	1.15	1.08	1.03	1.30	1.03	1.09	234	41
令和4年度	1.00	1.23	0.95	0.98	0.73	1.04	1.00	236	31

② 有識者意見

○共学化

- ・女子校としての歴史は尊重されるべきであるものの、ジェンダー平等の社会変化の中で、共学化が必要である。共学化にあたり、教育内容を見通した検討や、これまで培ったノウハウを発揮できる学校づくりが求められる。

○学科改編

- ・生徒が入学後に学びを選択できるよう、総合学科への改編（1年次：共通カリキュラム、2年次～：専門を選択）が求められる。
- ・生徒の幅広い進路選択に対応できる多様なコース設定等が必要。

○学びの内容

- ・家庭科の強みを生かしながら、市の施策と連携し、ビジネスや観光、工学や科学など、多様な学びを提供することが必要。
- ・大学の総合型選抜に対応するため、課題解決型学習を進めていく必要がある。

(2) 博多工業高校

① 現状等

- ・現行学科が約30年間変わっていない。情報通信業の従業者の増加など市内産業構造が変化しており、学科によっては、教育内容が社会のニーズにあわなくなりつつある。
- ・「情報処理・通信技術者」「開発・製造技術者」の需要増など、将来の労働需要の変化も踏まえた、教育内容の検討が必要。

志願倍率	機械	自動車工学	インテリア	建築	画像工学	電子情報	平均倍率	卒業後の進路	
								進学	就職
平成24年度	1.71		1.54		1.63		1.64	72	171
平成29年度	1.54	1.23	1.48	1.48	1.30	1.50	1.44	64	197
令和4年度	1.05	1.13	1.40	1.48	1.43	1.40	1.28	96	172

② 有識者意見

○学科改編

- ・インテリア、建築、自動車などの分野でも、これからは情報技術にも長けている必要がある。
- ・入学後に専門的な学びを選択できるよう、1年次は、総合的に工業全般の基礎・基本を学び、2年次から専門コースを選択できるような学科構成が望ましい。

○学びの内容

- ・人口減少社会において、サービス維持のため産業界での自動化が進む。情報通信系の技術者の需要増が予測され、IT人材を育成していく必要がある。
- ・建設業界では人材が不足するなど、労働力不足の観点から、建築などの専門分野の学びはこれからも社会から求められるが、技術を習得するだけでなく、語学、メンタリティなども身につけられる学びの設計が求められる。

○3年間に限らない教育課程

- ・データサイエンスやAIなどの分野は、技術者不足が顕著で、今後の伸長が予想されるが、高校3年間の学びだけでは不十分な面が否めない。
- ・市の施策とも連動しながら、求められる人材像や3年間に限らない教育課程（専攻科、高等専門学校）について、施設整備や教員確保も踏まえ、詳細に検討すべき。

3 今後の方向性

福岡女子高校は、共学化と総合学科への改編について、博多工業高校は、学科改編と3年間に限らない学びについて、具体的な検討に着手する。